

亡なり

乳王さま九幕



亡なり
の
乳王さま
九幕

■どうも皆さまご無沙汰しております。

初めての方は初めまして

ヤサカニ・アンでございます。

となりの乳王シリーズも9作目となりました。

色々描きたいことが増えて

いつもより増ページとなりましたが

良かったらどうぞ御覧ください。

それではまた後ほど



おまえ
聖杯は
在ってはならない
モノだった……

……あなた
何故……ッ

聖杯を……
拒むの……ッ



私たち
聖杯を拒んだ……

お前を……
衛宮切嗣……ッ！

世界を……
救う……ッ！

聖杯の呪いで……

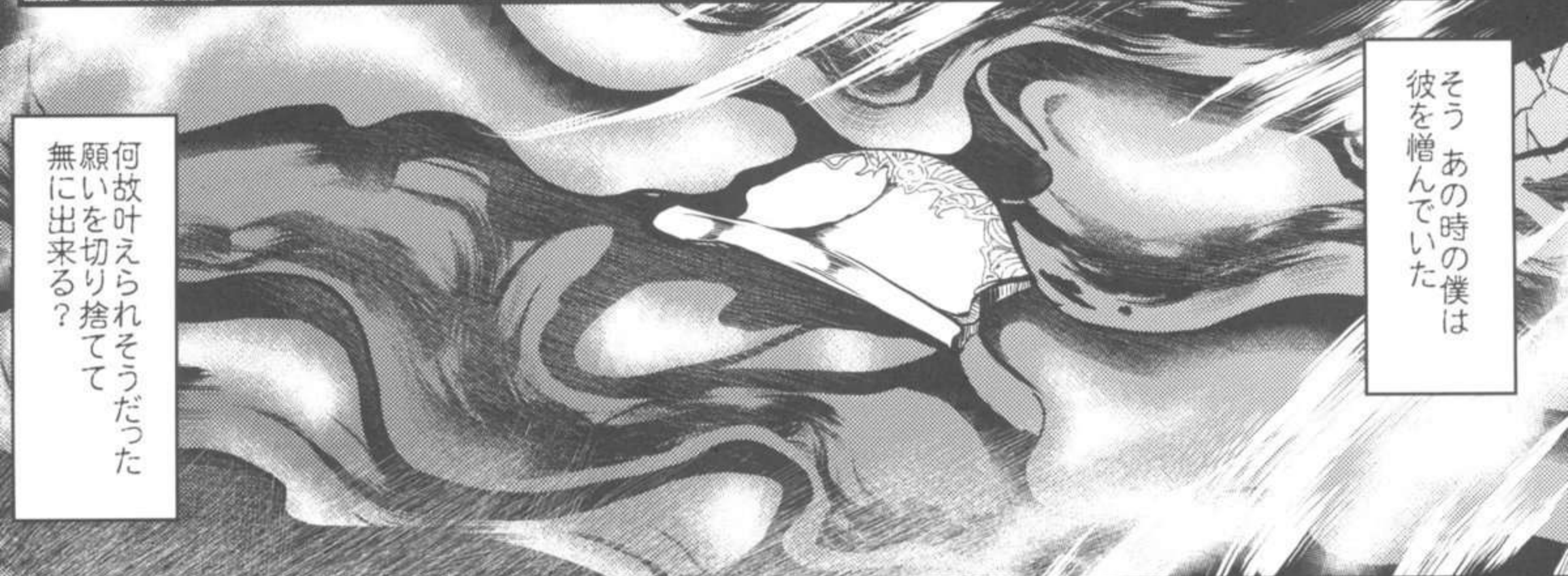
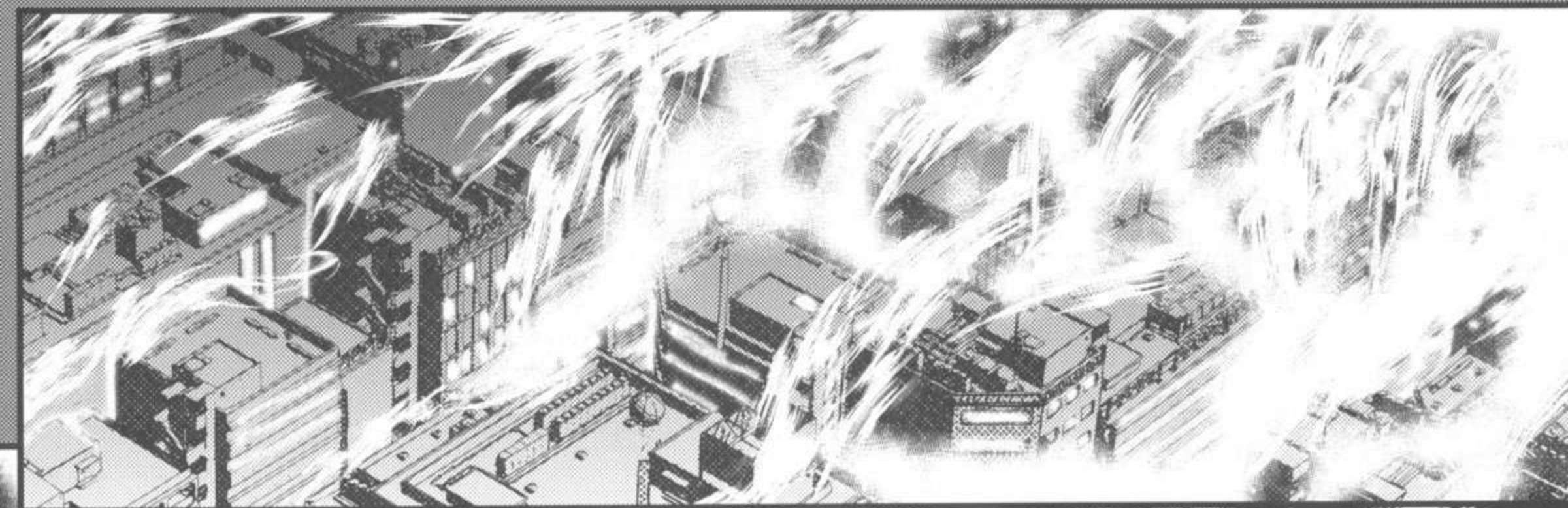
呪い殺して……



……呪ってやる

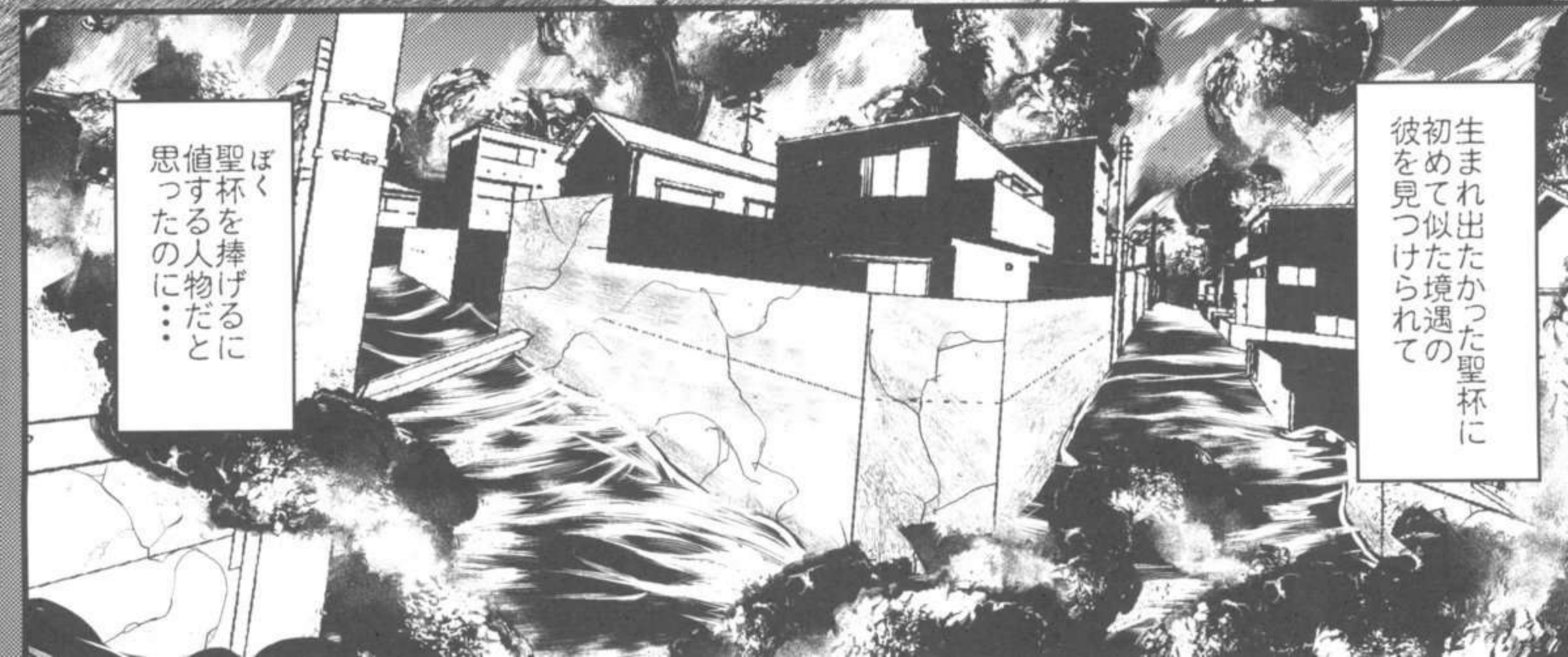
許さない……
苦しめ……

僕は……
おまえ
聖杯を殺して



そうあの時の僕は
彼を憎んでいた

何故叶えられそうだった
願いを切り捨てて
無に出来る？



生まれ出たかった聖杯に
初めて似た境遇の
彼を見つけられて

ぼく
聖杯を捧げるに
値する人物だと
思ったのに……

お前は『世界を救う』事を
願いに
ここまで来たのでは
無いのか？

これでは
願いへの
裏切りではないか……！

許さない……許さない！
許サナイ……許サナイッ！
許サナイッ……！！



聖剣の一撃により
聖杯を破壊され
僕は受肉できず
欠片と泥と共に
街中に流れ出た

泥は街中全てを
燃やし憎悪と
共に飲み込んだ
それでも数日経てば
冷え固まり、元に戻るだろう

そして僕の誕生は
次の聖杯戦争まで
待つものだと
そう思っていた

だが僕は
見てしまった
あの光景を



……生きてる

生きてる……

生きてるッ!!



ありがとう

見つけられて
良かった……


一人だけでも
助けられて……

救われた……




ああ……
ああ……
ああ……

なんて……



なんて
美しいんだろう


こんな……
瓦礫の光景に
こんな……



人の負の感情を
受け止めるだけに
生まれた
反英霊の僕が

復讐者の僕が
初めて『綺麗』だと
思った光景……

その瞬間 僕の感情は
「裏返った」

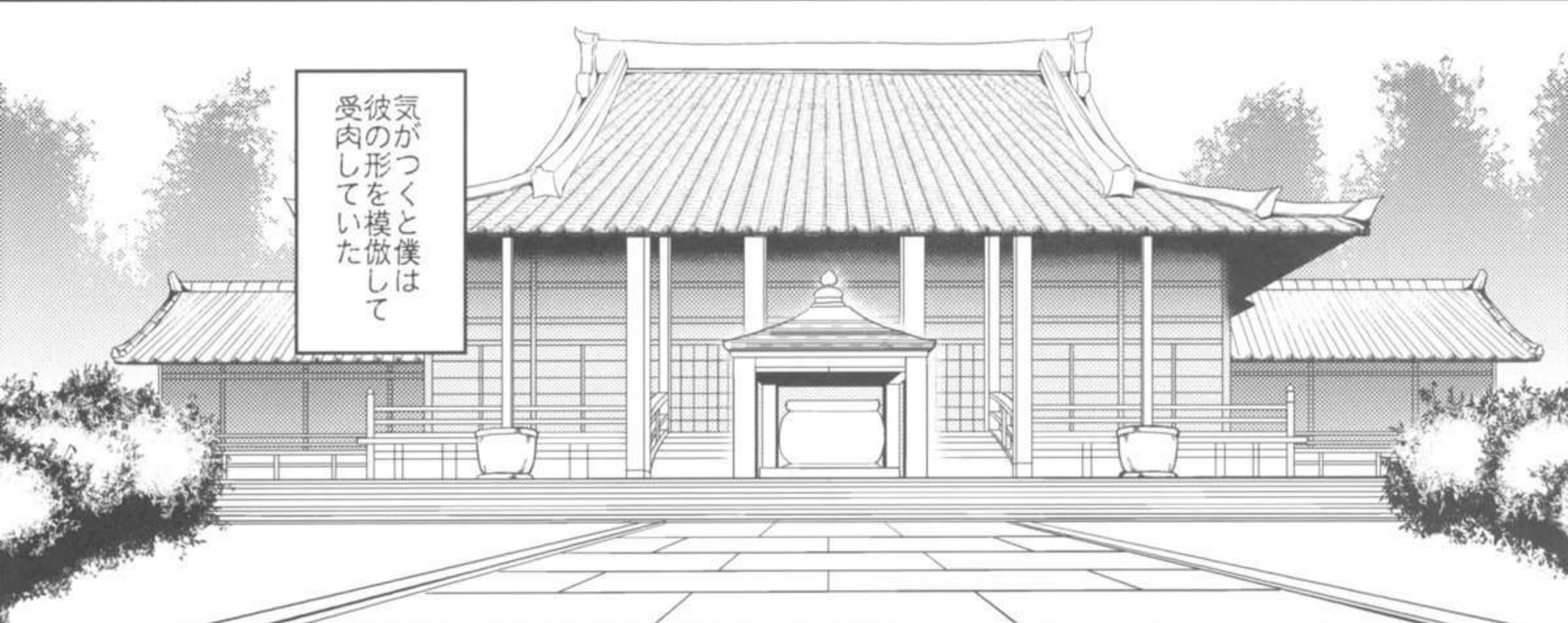
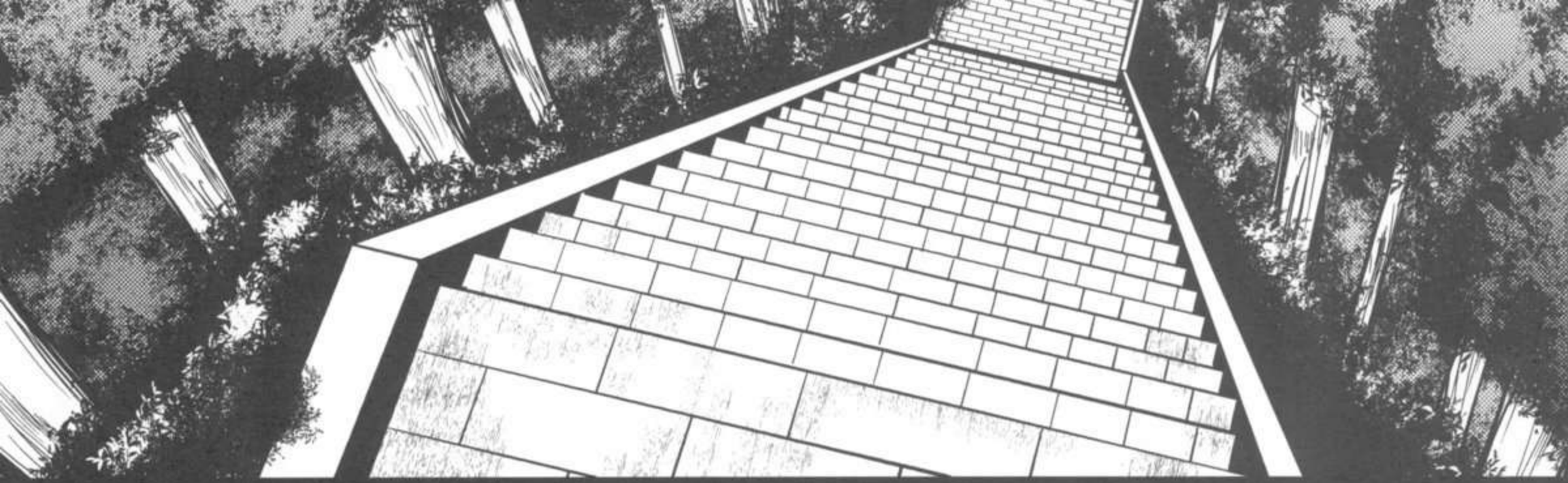


ああ……僕は
彼を
誤解していた

彼は『この瞬間』の為に
これまで戦っていたのか
なんと憐れも尊く
そして美しい願いなんだ……

これが『世界』を
救う事……
素晴らしい……

誰かを思う気持ちは
こんなにも力が
湧いてくる
ものなのか……!!

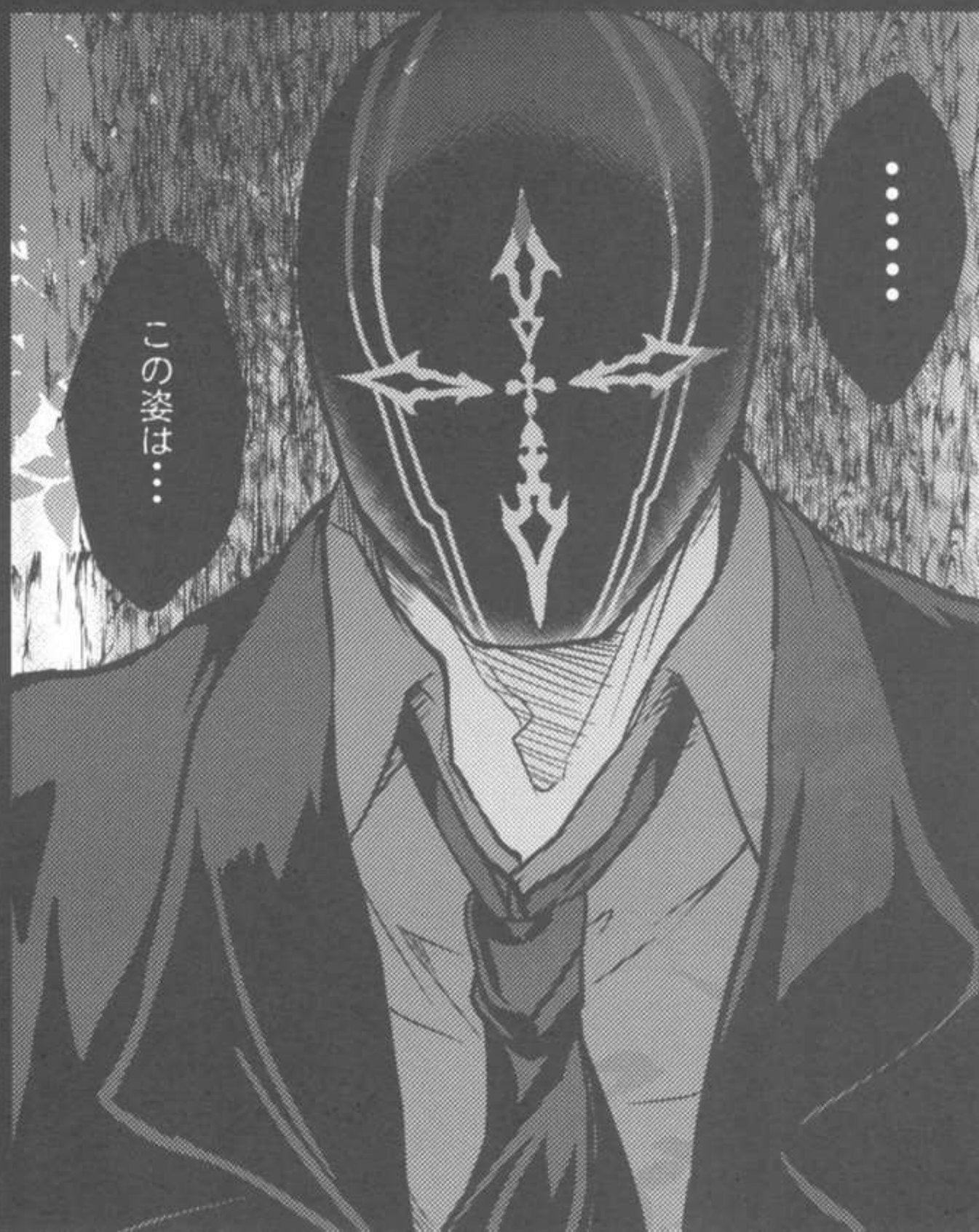


気がつくとも僕は
彼の形を模倣して
受肉していた



そうか……
あの大災害で

僕は泥に
呑まれた魂達を
糧に受肉したのか……



この姿は……

……

そうだ
これは切嗣が
僕にくれた贈り物だ

衛宮切嗣
やはりキミこそ
「この世の全ての悪」を
担うに相応しい

だが、彼はこの先
願いを叶えられなかった事を
きつと後悔し
死ぬ事になるだろう

でも切嗣
安心して欲しい

僕が代わりに「切嗣」となって
彼の残した願いを
叶えよう……

キミは僕にとって
初めての憧れなんだ
憧れた気持ちは
相手を想う
「愛」といってもいい。

キミが救った子供
「士郎」も
その願いの為に
救ってあげよう

だが、この身体で彼の願いを叶えるにもまだ不完全……

誰にも悟られず魔力を補充する必要があるそれに、聖杯の欠片も必要……

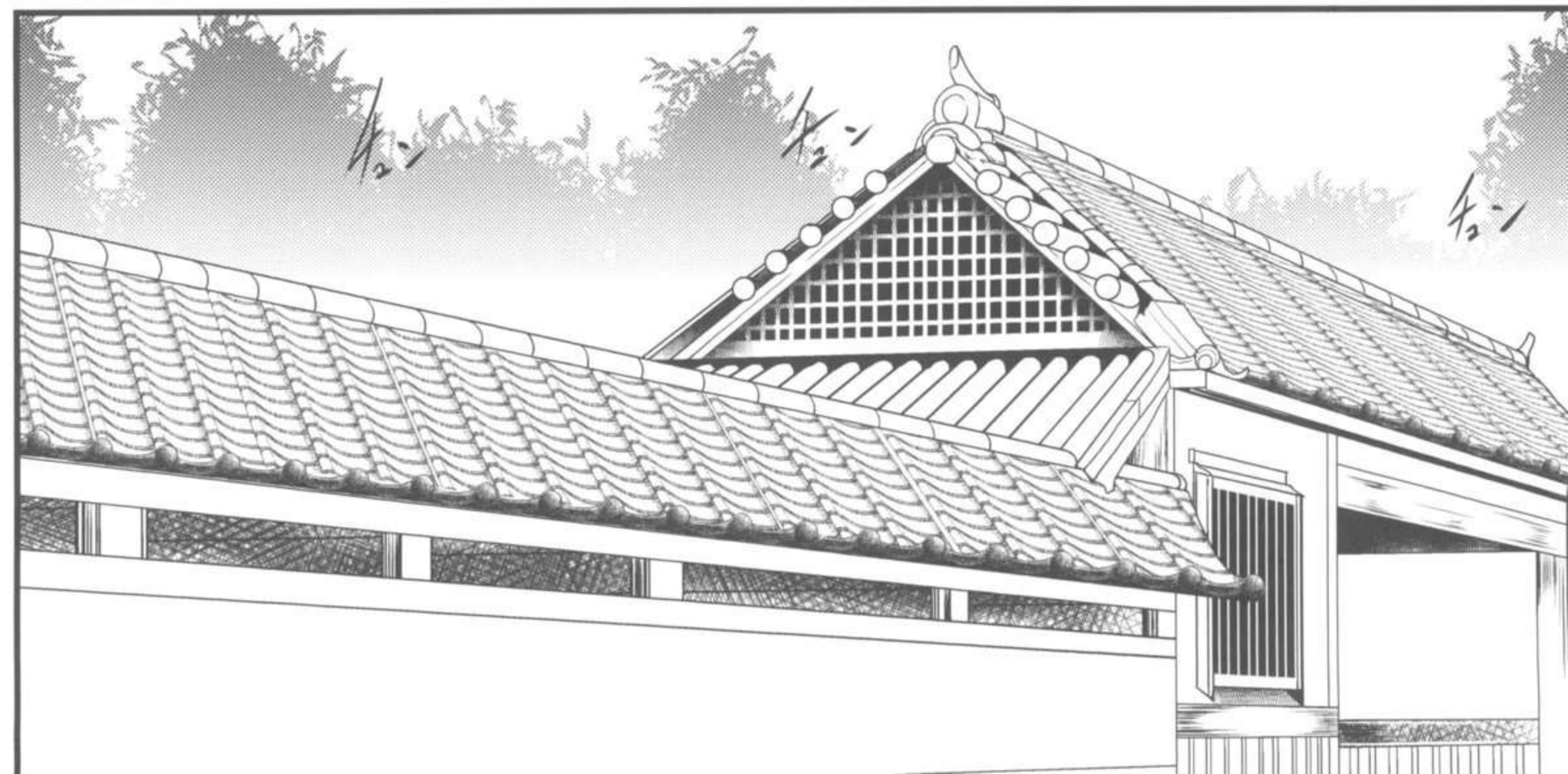
幸い、士郎くんの中に聖杯の欠片があるようだ

誰か僕の代わりに……となりに居てくれる親代わりの者が必要だ

そうだ……彼女がいい彼女はい士郎くんとの絆が幾多もある

護り手としてもこれ以上になく相応しい……

彼のとなりに居てくれれば……後は……





あれ…
もう朝…？

そっか…
俺…あれから
ずっとセイバーと…



あ…
起きましたか？

おはようございますっ♡
シロウ♡

んあっ

おはよう
セイバー…



魔力の方は
どう？
あれで回復はできた？

はいっ
お陰様で

ですが…欲を言えば
もう少し
魔力が欲しいなって



なのでシロウ
私に目覚めのキスで
魔力を下さい♡

ええっ
!?

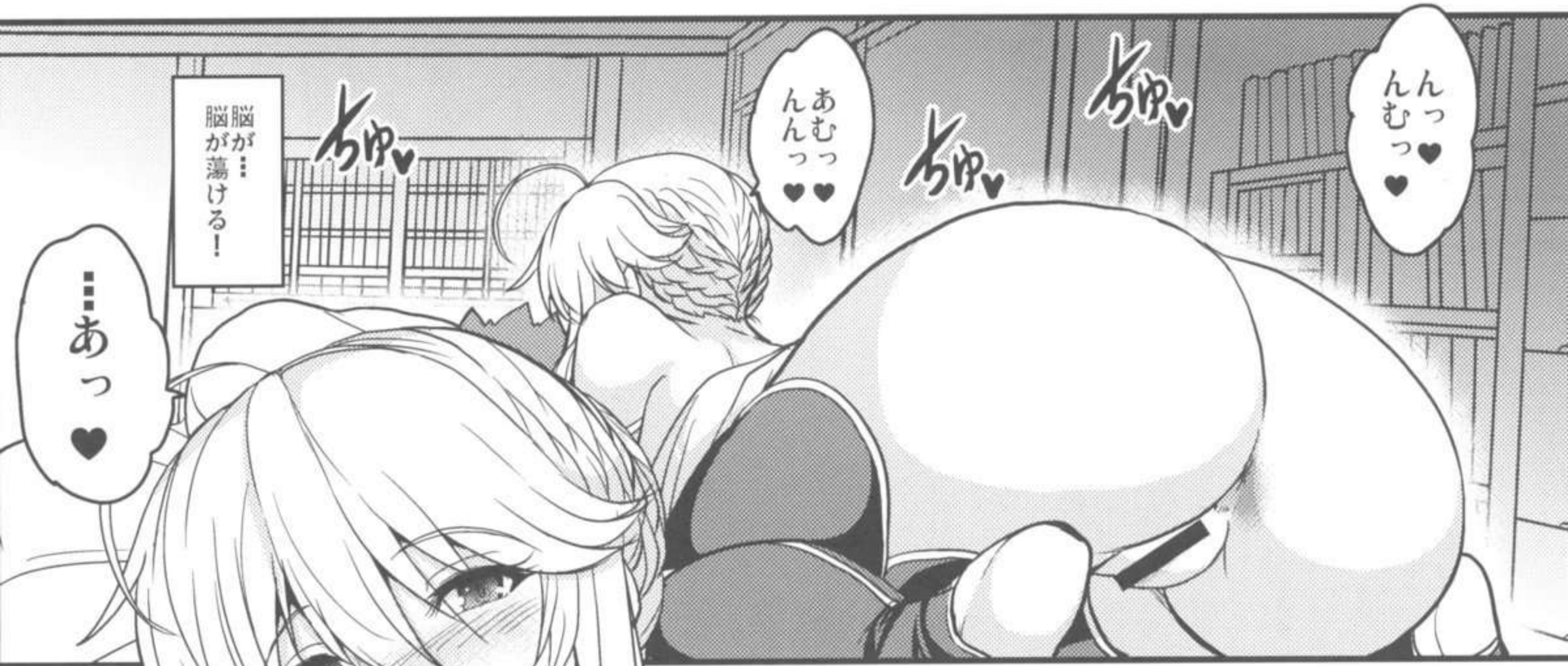


んっ
シロウ♡

朝から
激しっ…んんっ

ま…待って
セイバー！
んんっ！

セイバーと俺の
唾液が
舌と一緒に
混ざって



脳が…
が蕩ける！

…あっ
♡

んん
あむっ
♡♡

ちゅ♡

ちゅ♡

んん
むっ♡
♡



いいえ♡
感じてくれて
嬉しいですよ♡

ご…ごめんっ
こんな
つもりは…

ふふっ♡
こちらのシロウにも
目覚めのキスしないと
いけなくな
りましたね♡



シロウのおちんぽ
こんなに
大きくなって！♡

キスだけでこんなに
興奮してくれたの
ですね

ああ…
セイバー…

それでは
いただきますっ♡

はっ

はっ

ちゅっ

ちゅっ

んっ



ま…待って
セイバー！
昨日の汗が
混ざってるから汚な…っ

んっ
ろうれふ
ひろうっ…
ひもふいひひっ…♡

じゅっ

んっ

じゅっ

あああっ！
啜えたまま
喋らない…でっ！



それでは次に
シロウの大好物の
ぱいずりで

昂ぶってる
シロウのを
挟んであげますねっ♡

ふふふ♡

たろろ♡

あゝあゝ♡

たろろ♡



いつもながら
最高としか
ああっ…

セイバーには
感謝しかないよ

ああ…乳内に
包まれる
この感触…

ありがとうございます
シロウ♡

いつも以上に
心を込めて
ぱいずりして
あげますからねっ♡

ふふふ♡

ふふふ♡

たろろ♡

あゝあゝ♡

たろろ♡

たろろ♡

あゝあゝ♡



す……す……い……
腰が
抜けそうな程に
気持ちいい……っ

ふっ
ふっ

ずりっ
ずりっ
ずりっ

こっやっ
ぎゅっ……っ
押し上げて

んっ
ふっ

あっ
シロウの
胸の中で
悦んでるの
伝わって
きます

たほっ

グリッ



も……もうずっと
こうして居たい
気分だよ

ああっ!

たほっ

シロウは
私のおっぱいの乳内
本当に好きなんです

はあ……はあ……
あああ……

如何ですか?
シロウ
私のばいずりは

ふふっ
もう語らずも
判るくらい
悦んでくれてる
みたいですね

たほっ

ビッ

ビッ



ああ…
最高…♡

セイバー♡

んっ♡

シロウの胸の中で
嬉しそうに
ピンピンしています♡

ぬちゅ♡

ぬちゅ♡

私も嬉しくて
なっちやいますね♡

ぬちゅ♡



ああっ
あッ!

我慢しなくて
いいんですよ♡
シロウ…♡

ぐりゅ♡

どうぞ
私の胸の中で
好きなだけ
どびゅどびゅ
してください♡

ぐりゅ♡

ぐりゅ♡



シロウのチンポ
綺麗に
しますねっ♡

んっ♡
まだ奥に残り汁が
残って…♡

あああ…
射精したばかりで
そこ…敏感に…っ!



んっ♡
ごちそうさま
でした♡
凄くいっぱい
出ましたね♡

見てください
シロウの精子が
こんな
胸いっぱい♡

うわあ…
我ながらすごい…

ざ…ザ…メン
ブリッジだっけ?

あの…シロウ
「おかわり」は出来ますか?

あっ…うん!
まだ元気だし
大丈夫みたいだ

はあ...
はあ...っ

はあ...
はあ...っ

どうぞ♥
私のココもシロウを
欲しがってます♥

セイバーのお尻...
こんなに
ヒクヒクして...

どうかシロウの
チンポでいっぱい
可愛がって下さい♥

はーっ♥

んっ♥

せ...
セイバーっ♥♥

んああ♥♥

んっ♥

んっ♥

んっ♥

ぬちゅっ

ホントに夢のようだよ
セイバーのえっちな
身体をこうし
いっぱい抱けるなんて

遠慮しなくて
良いんですよ
シロウ

私のカラダも心も
シロウのモノ
なのですから♡

それに
もう貴方は私の
マスター
なのですよ?♡

ずちゅっ♡
ずちゅっ♡
ずちゅっ♡

ぬちゅっ

ぬちゅっ

マスター...

う...うんっ!
セイバーの為に
頑張る...!

ずちゅっ

ずちゅっ

ずちゅっ

ずちゅっ

そうです♡
子宮にもシロウが
マスターだと
教えてあげてください

ずちゅっ♡

貴方のザーメンで
いっぱいにして...
そう♡いっぱい
ちゃんぽで打ち付けて
マーキングして♡

ずちゅっ♡

ずちゅっ

ずちゅっ

ずちゅっ

ずちゅっ

そう♡シロウ♡
もっと深いところに
パンパンついて♡

ああ…じょうず
シロウ…
そう…奥にっ♡

ハ
ビクッ♡

ハ
ビクッ♡

私も
イキそうですっ♡

ズ
ズ

セイバーっ!!
またイクっ!!

俺もまた…
射精るっ!!

はいっ♡
どうぞそのまま
膣内に♡

シロウの魔力汁
注ぎ込んで
くださいっ♡

あっ♡

ズ
ズ

ズ
ズ

ズ
ズ



また
射精るっ!

はぁあぁッ

んはぁあッ

す...凄く
気持ち良かったよ
セイバー
でも今日は
何だか...
もっと抱いていたい
気分なんだ...

はいっ私もです
シロウ♥

ふたりで
少し横に
なりましょうか

どろろ

どろろ



今日のシロウは
凄いですね
昨晚も
したばかりなのに
まだこんなに……♡

素敵です♡

はあ……はあ……

それは……
たぶんセイバーと魔力が
完全に
繋がったから
……だと思っ

回復が
凄い早いんだ……



あ……♡

んんっ♡
んんっ♡

シロウのチンポっ♡
口の中で
また大きくなって♡

あ……♡

あ……♡

セイバーの
舌使い……!!
気持ちよくて
何度でも
復活できちゃう……!!



チンポっ♡
シロウのおちんぼ♡

私の膣内でうねって
悦んでいます♡♡

うあああ♡
セイバーの膣内
熱くてぎゅぎゅ♡
求めてくるっ♡



ああっ♡
シロウに胸
揉まれながら
まぐわうの…好き♡

奥に…♡
おまんこに
響いちやう♡

私もです♡

んあ♡

おんあ♡

ずっしり
柔らかで…
気持ちいいよ…
セイバー…
す…凄いよ

おんあ♡

おんあ♡



あぁ…♡
もっと
おちんぼもっと
突き上げて下さい♡

おちんぼ硬いっ♡
私の膈内で
ずんずんっ♡
シロウ
素敵です♡

おんあ♡

おんあ♡



あっシロウ♡
いいです♡
もっとおちんぼを♡

うん! いっぱい
流し込むよ!

俺の精液
全部
受け入れて欲しいっ

俺の...セイバー♡

あなたのしるしを
私に流し込んで
ください♡



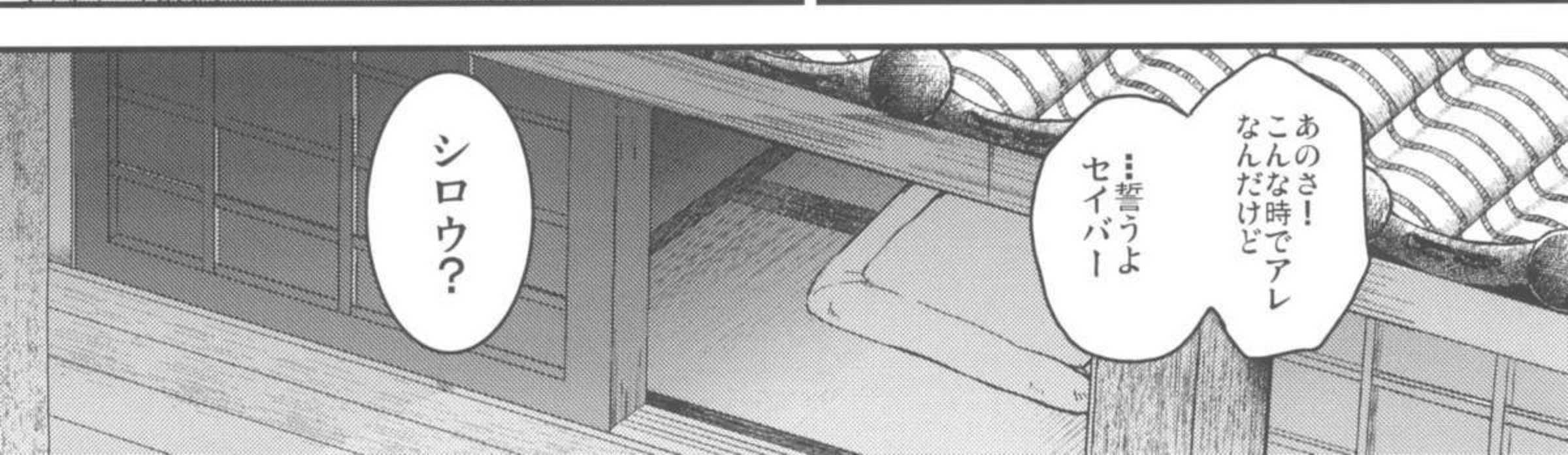
はいっ♡
貴方の
セイバーですっ♡

この子宮で♡
膈内で♡
受け止めます♡

大好きですっ♡
シロウ♡

俺も大好きだ!
セイバーっ!

んあああ♡
♡
♡



んあっ♡
シロウ…♡

何度でも
膣内に
精子注いで♡

ああ…!!
シロウ♡

それ♡
凄くいいですっ♡
シロウ♡♡♡♡♡

…この一時が
終わったら…
俺達の
黒い男と
戦うんだよな…

もしかしたら…
セイバーとの
一時も
これが最後に…

あのさ!
こんな時でアレ
なんだけど
…誓うよ
セイバー!

シロウ?



こんな未熟な
マスターだけど
まだまだ半人前の
魔術師の
つもりだけど
……えっと……



シロウ…
どうぞ
続けてください♡



この身
俺の運命…
セイバーに全て託す

最後まで
一緒にいよう
セイバー
そして
またこの一夜を
過ごそう

はいっ…
誓います
貴方と私は
剣と鞘

もはや
運命共同体です
死がふたりを
別つまで



貴方を守る為なら
如何なる
脅威を払い除ける
星の剣となりましょう

ああっ♡

この身の
全てを貴方に
捧げます

だから…
きてっ♡

シロウ…
私のマスター♡

すっ♡
すっ♡
すっ♡

セイバー！
好きだあーっ！

んはあ♡
あめ♡

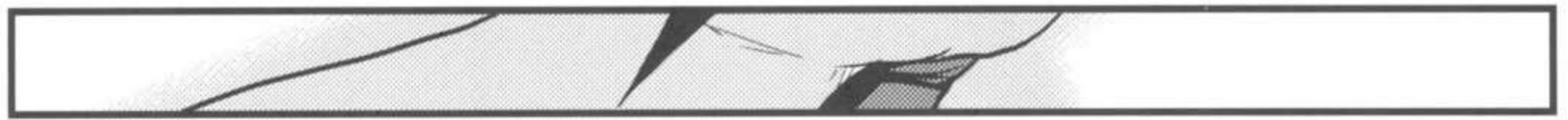
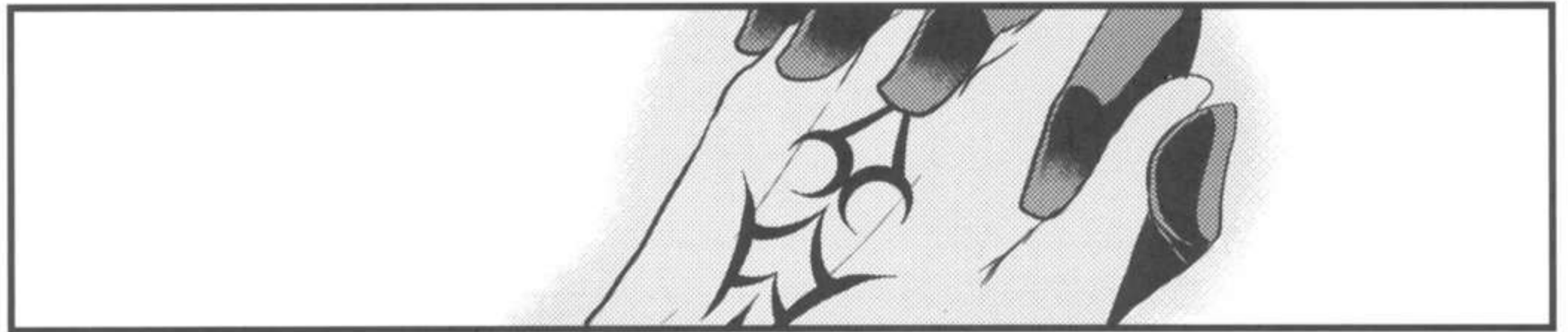
シロウ♡
わたしもです♡
どうか一緒に♡♡♡





シロウ…

愛しています♡
私の…マスター♡



これで貴方と
私は正式な
マスターとサーヴァントに
なりました

私とシロウと魔力が
通じ合ってるのが
わかりますか？

うん、感じる
確かにセイバーを
感じ取れるよ！

でも…ゴメンね
セイバー

シロウ？

俺が生まれつきの魔術師だったら...



もっとセイバーの力に

いいえっ！
そんな事はないです！
シロウ！

聖槍がなくても
貴方の鞘と
絆があれば
どんな敵だって...



うんわかってる
無い物ねだりになって
ゴメン...セイバー

でも現状アイツに
勝てる
打開策は
まだない...
「武器」が足りないんだ

グッ



爺さん...
俺...今こそ誰かの為に
力になりたいって
思ったことはないよ...

俺にしか
出来ない力が...
何か...

し...
シロウ！

貴方の机の中から
光が...!

えっ？



えっ...
何...

花びらが...
光って...!



こ...
これは...!?







え…あぁ、うん
アイツ
名前だけだった

それって
何かあるの？

アンリマユ…
聖杯の中身だって

騎士王

彼の願いから
産み出された
聖杯の中身さ

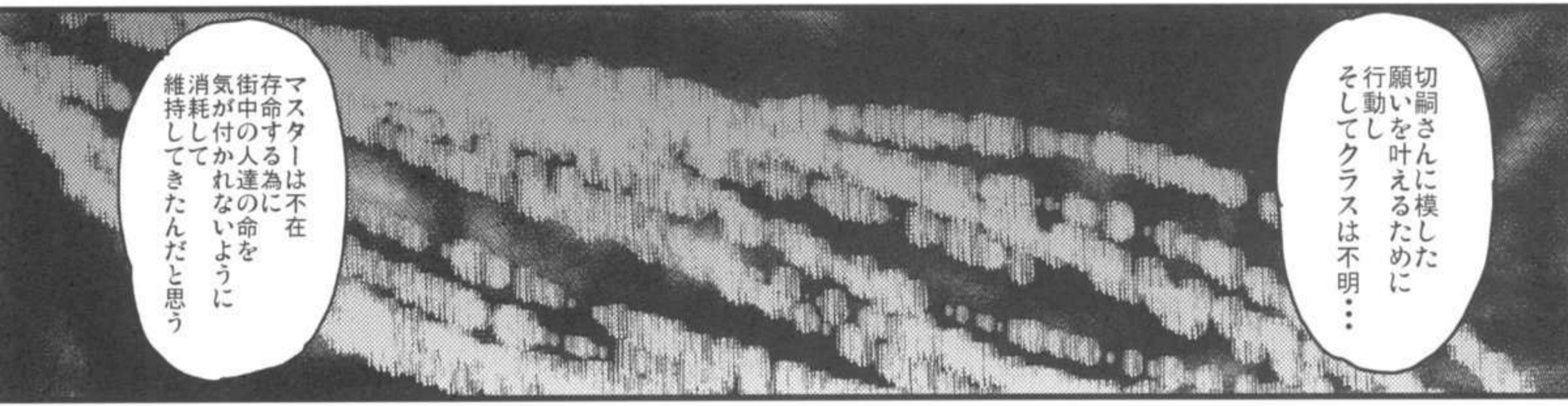
そっ…



士郎くん
君のお父さんに
似せたアンリマユ

名前だけ言ったの？
クラスじゃなく？

あ、待って
一つ聞いていい？



切嗣さんに模した
願いを叶えるために
行動し
そしてクラスは不明…

マスターは不在
存命する為に
街中の人達の命を
気が付かれないように
消耗して
維持してきたんだと思う



うん…恐らく
そのアンリマユの
該当するクラスは…



私の愛馬
ドゥン・スタリオン
です

グルル
これで天を駆けて
目的地へ
行きましょう

さあ
シロウ
こちらへ乗って下さい


ゴメンね！
士郎くん
こんな形で
付合わせてしまって

うんっ！

君にとって
あまりに荷が重すぎる
出来事が
起こってしまった


これはいざれ来る
俺の立ち向かうべき
運命だったんだと思う

良いよ別に
構わないさ



まだ投影魔術も
不完全な未熟な
魔術師だけど
きつと出来ることは
あると思うんだ

だから、
今の俺が
出来ることを
全力でやり遂げるよ。



そうですシロウ
今の貴方は
私の正式なマスターです

自信を
持ってください

貴方の身は
私の命に変えてでも
必ずお守りします。



うん、
一緒に立ち向かおう
セイバー！



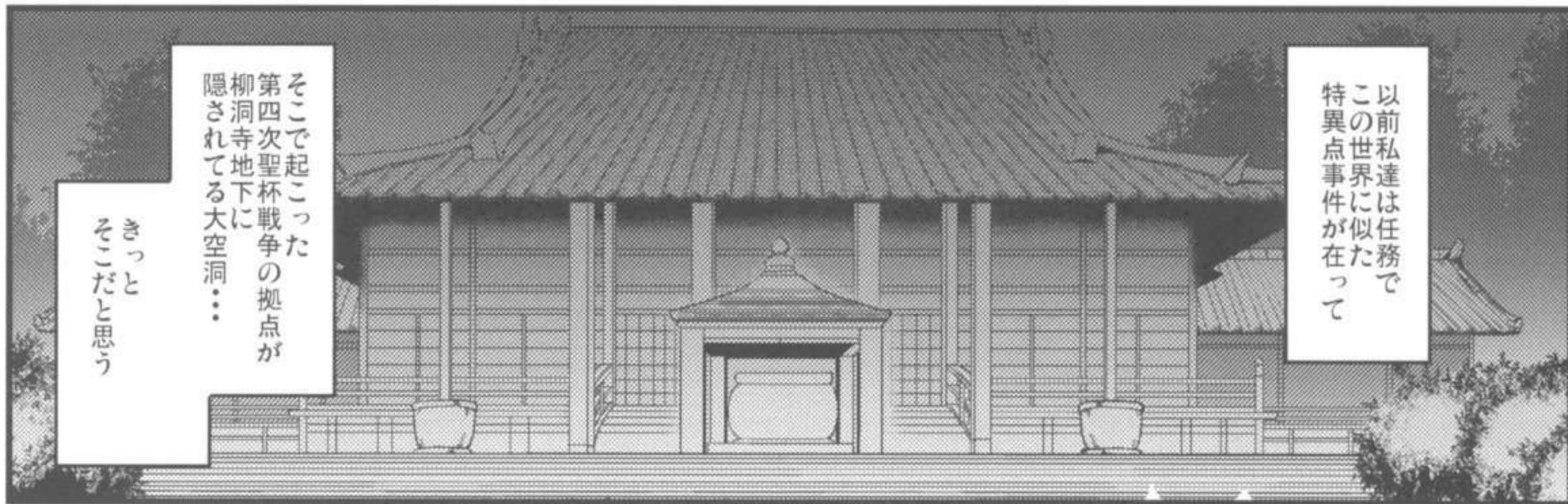
はい、先程
カルデアのマスターから
伺ってます

前に似た世界で
起きた事件から
あの黒い瘴気を
辿って
発見したそうです



アイツ
大聖杯空洞で待って
言ってたんだけど

まさか
あの場所だなんて…



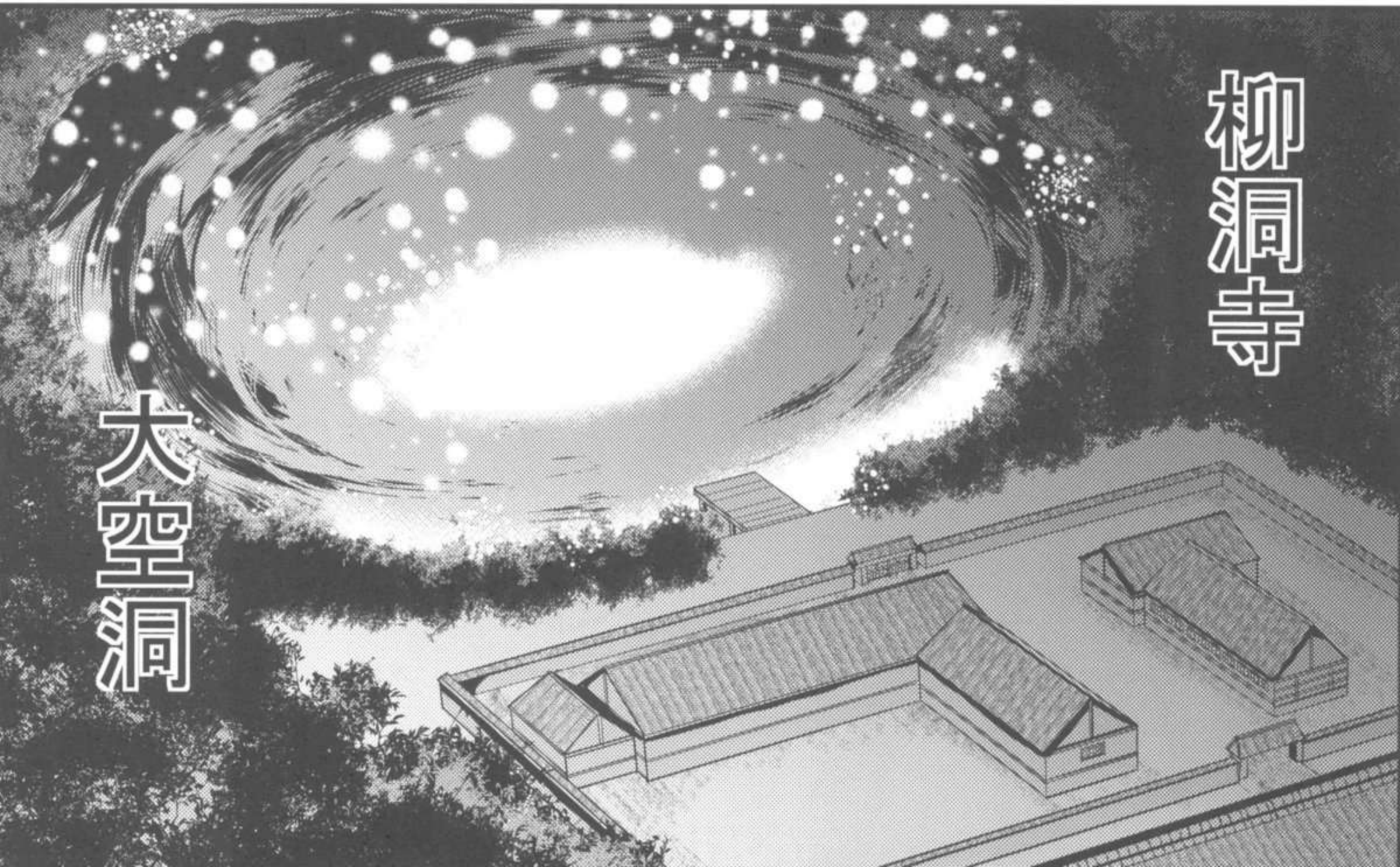
以前私達は任務で
この世界に似た
特異点事件が在って

そこで起こった
第四次聖杯戦争の拠点
柳洞寺地下に
隠されてる大空洞…

きっと
そこだと思う

柳洞寺

大空洞





あれは!?

!!

ちよっと
待ってセイバー!
遠くに見える
アレは...
何?!



泥の触手!



ドウン・スタリオン!



しまった！

シロウっ！



このまま落ちて…
死ぬ？

この高さから？

まだだ…死ねない！
諦めない！

来てくれ！
セイバー…ッ！



シロウ!
大丈夫ですか!

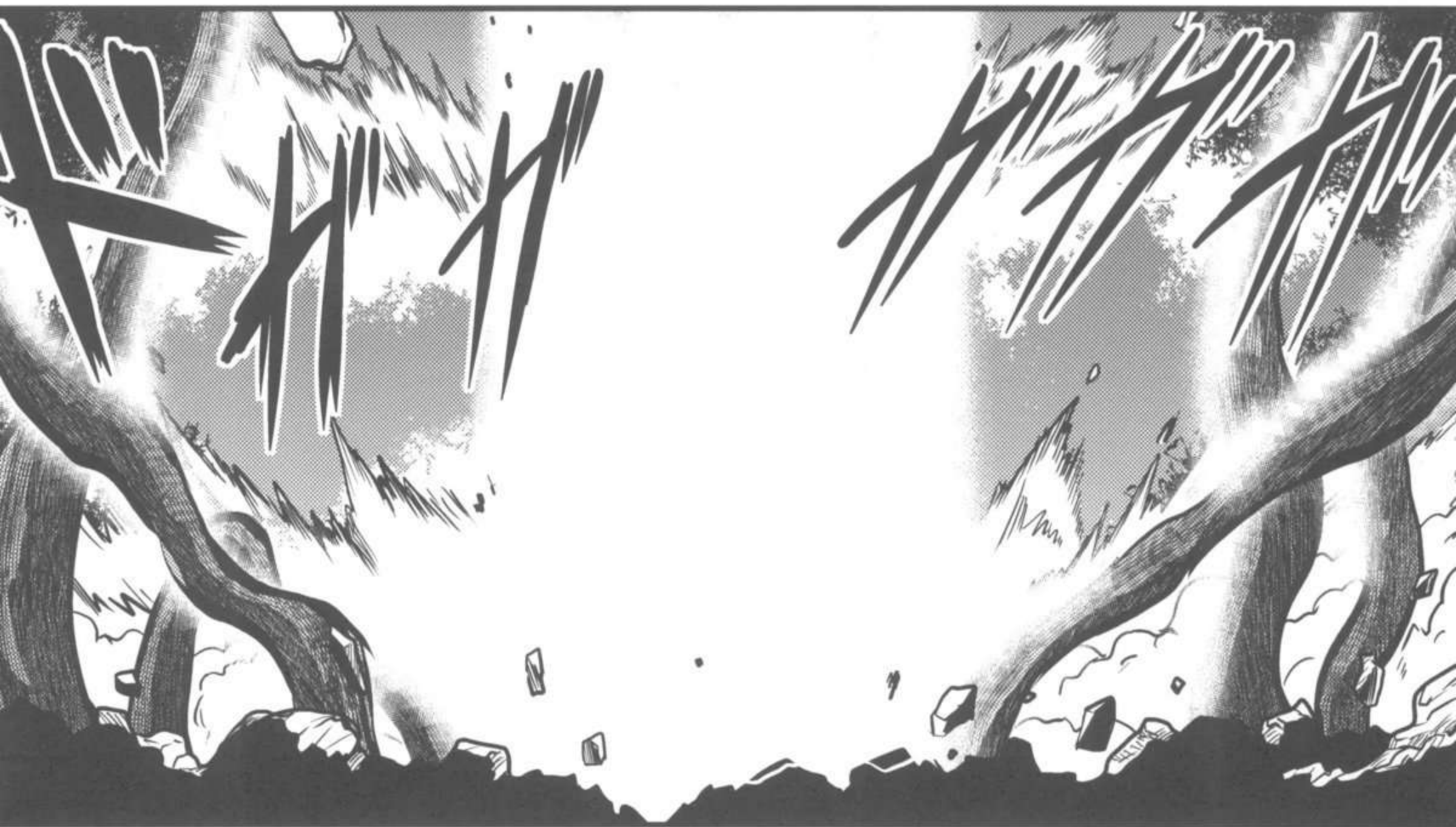
せい
せいバー!

すみません
不覚を
取りました!

ですが
このまま大空洞まで
触手もろとも
突っ切り
押し通します!

シロウは
どうか衝撃に備えて
私に掴まって下さい!

わわ
わかった!





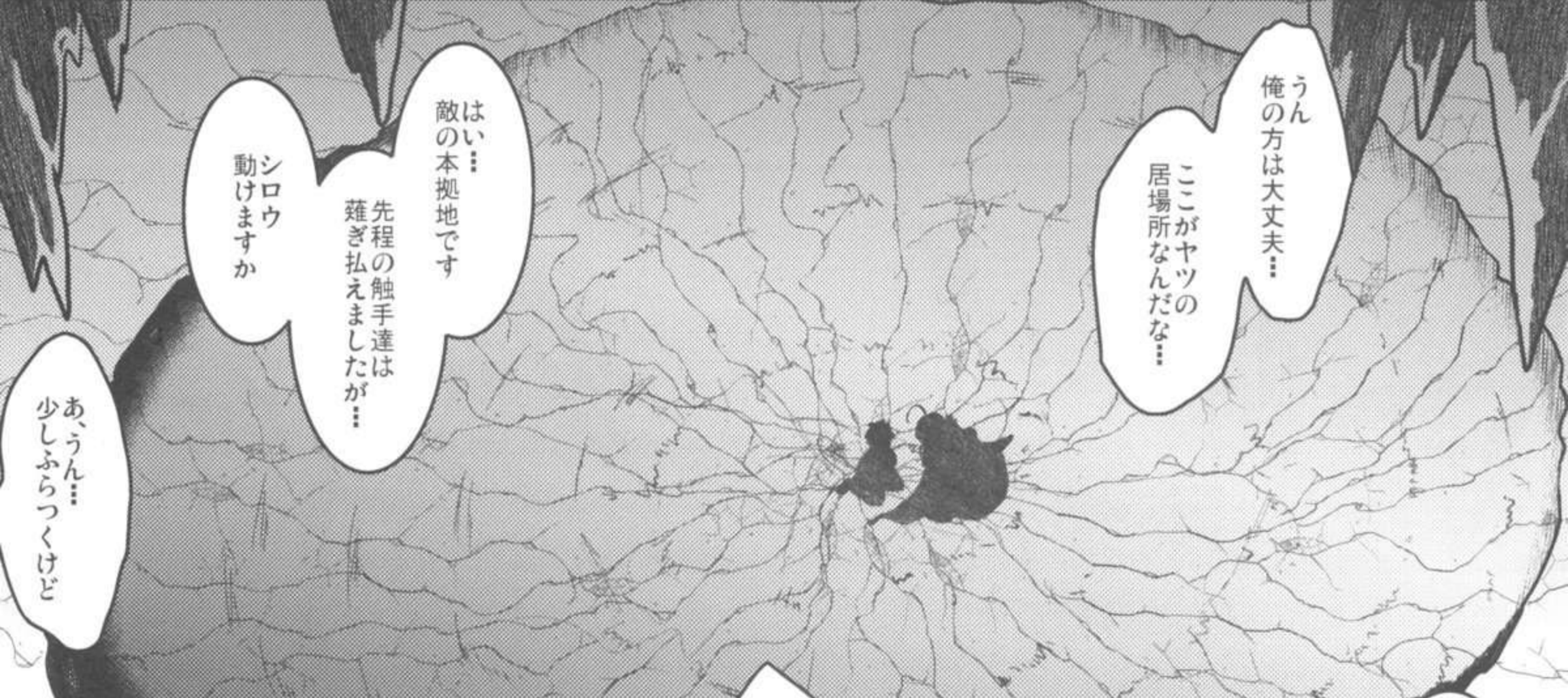
シロウ!

あっ……うう

シロウ!
ご無事ですか!

シロウ!

セイバー……



うん
俺の方は大丈夫……

ここがヤツの
居場所なんだな……

はい……
敵の本拠地です

先程の触手達は
薙ぎ払えましたが……

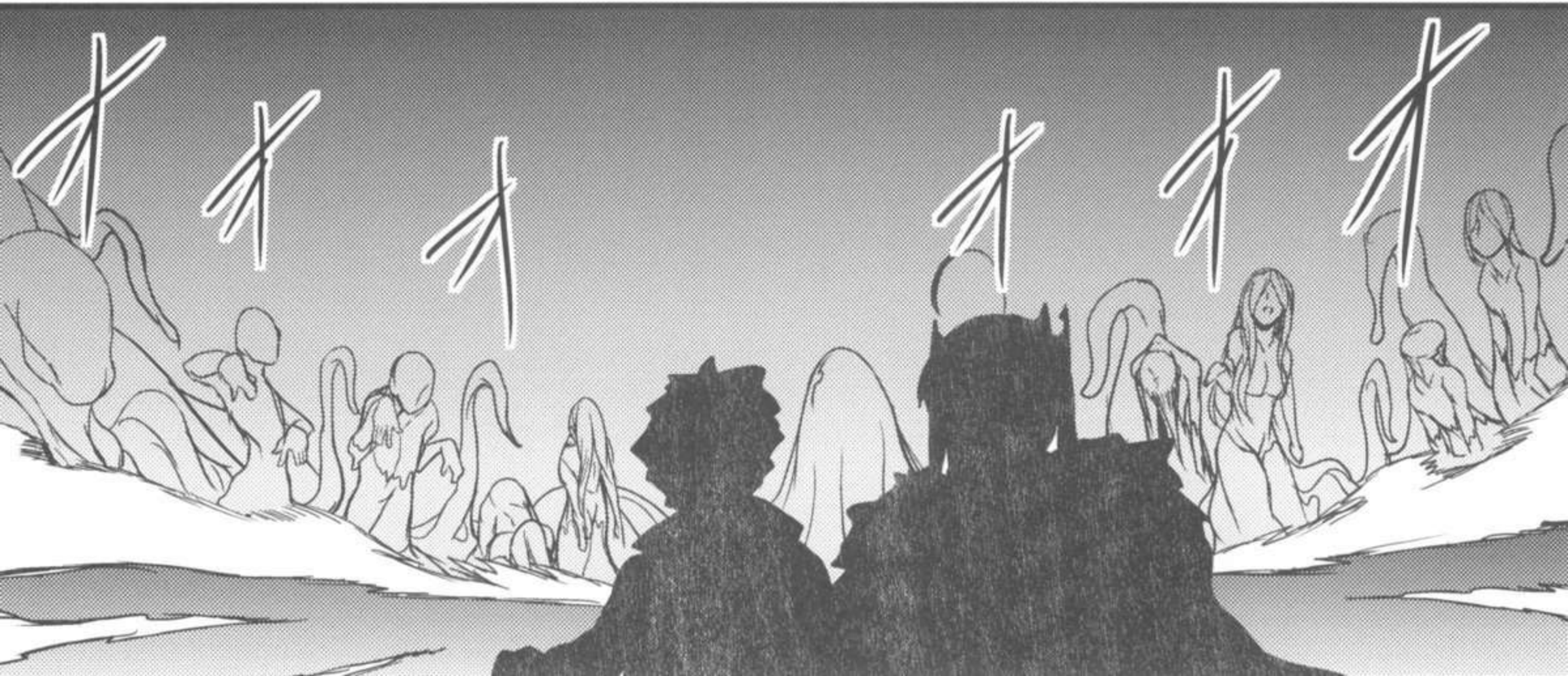
シロウ
動けますか

あ、うん……
少しふらつくけど



急いで
ここを……ッ!

既に新たな
泥の者達が
集まっています!





全くッ！

ふたり共
先走り過ぎだ！
迂闊だぞ！

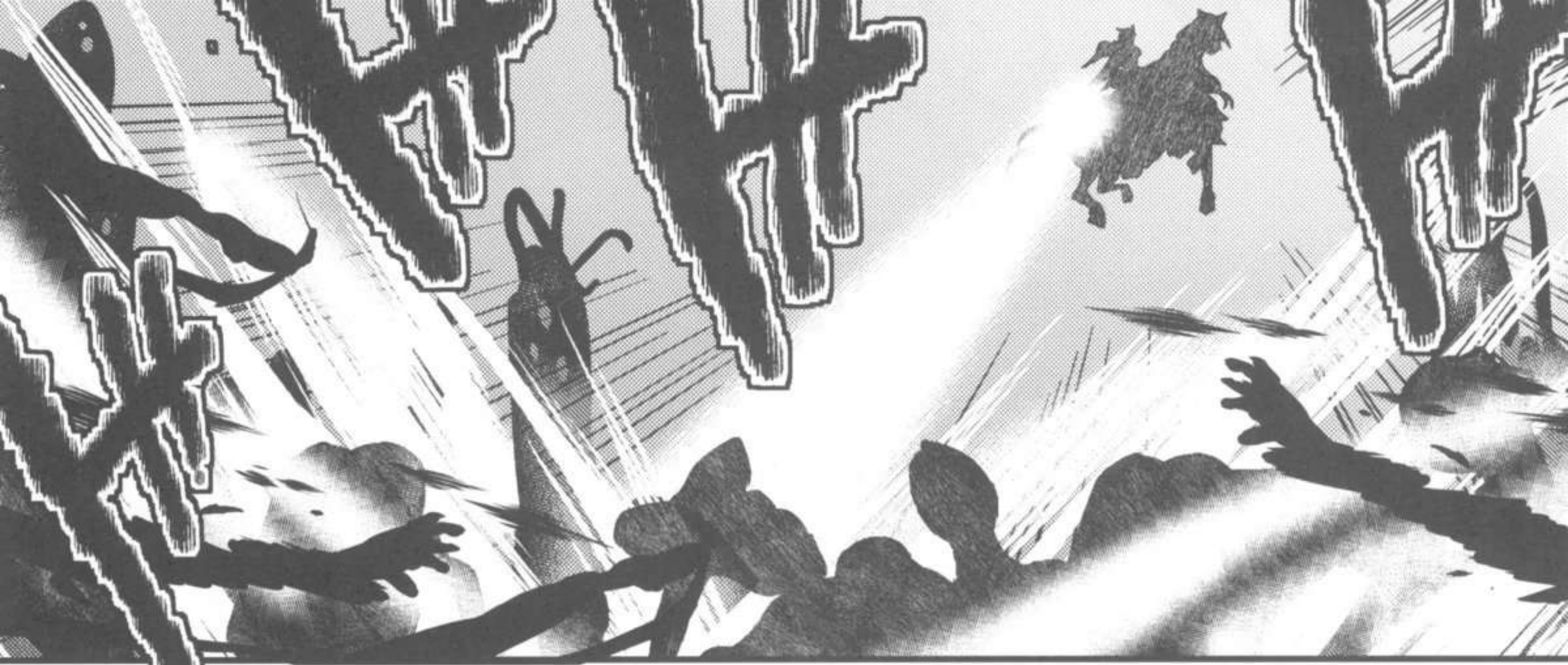
アルトリアっ！
シロウっ！



お待たせ！
ふたり共！

オルタ！
それに

カルデアの
マスターも！



シロウ!
アルトリア!
何を立ち止まっている!

たかが泥ごときに
立ち塞がれて
どうする!

目的は
泥の聖杯の
破壊であろう?

ここは私達に任せて
躊躇わず
先へ行け!



でも
これだけの数...

シロウ!

彼女達の言う通りです
ここは彼女たちに
任せて目的へ
向かいますよう

うんっ!
うんっ!
うんっ!



立香!
オルタ!
帰ったらまた
皆一緒に食卓で!

まだ食べて
貰いたい
料理あるから!

どうか!
死なないで!



さあ恩を返しましょう！
マスター！



衛宮くんの料理だって

これは絶対に負けれないね！
オルタ



ええ！シロウの料理は最高ですから

帰って最高の食卓を堪能しましょう！



我が槍よ！今こそ吼えろ！

喰らえ！

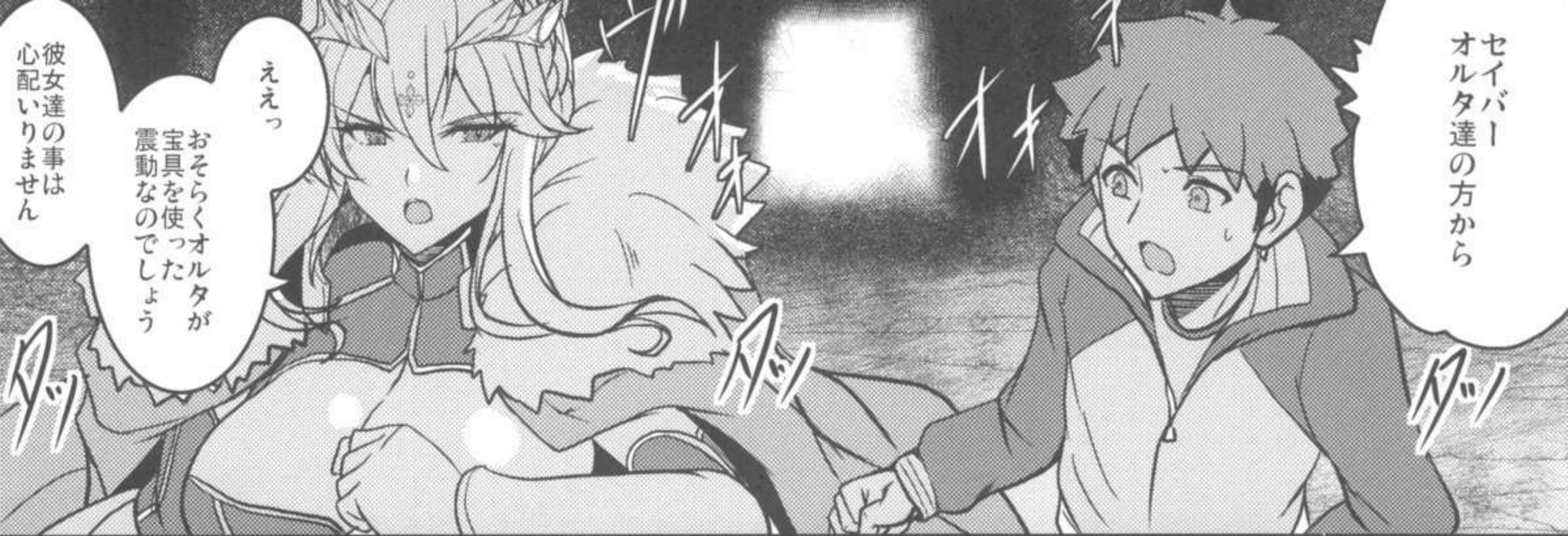
十三の牙！



最果てにて

輝ける槍ツ

ニアド



セイバー
オルタ達の方から

ええっ

おそろしくオルタが
宝具を使った
震動なのでしょう

彼女達の事は
心配いりません



シロウ
見えて来ました!

あそこです!

この瘴気の
奥に...



歪んで産まれた黒聖杯が...

アンリマユが...!



約束通り
来てくれて
嬉しいよ

待っていたよ

アルトリア
ペンドラゴン

そして
衛宮士郎



この
無数の遺体…

まさか…



シロウ…
あまり周囲を見ては
いけない…

アレは…
恐らく…



キミ達が一体どうやって
ここまで辿り着くか
興味はあったが…

まさか上空から
大空洞まで
突破してくるとは
思わなかったよ



アンリマユの
犠牲になった
人々の亡骸…



あの時の
黒聖杯の再臨か！



アインリマヌー！

そうだ
切嗣の在り方を
受け継いだ



彼の祈りを
遂げるための
生贄だ



騎士王は士郎と
共に過ごす
時間を求めた

士郎は
亡き父後に彼女に
家族の愛を求めた

さあ……ふたり共
夢から醒める時だ
その夢含めて
僕が全て引き継ごう……

この黒い世界で
永遠に！



来るよ！
セイバーっ！

はい！
シロウ！

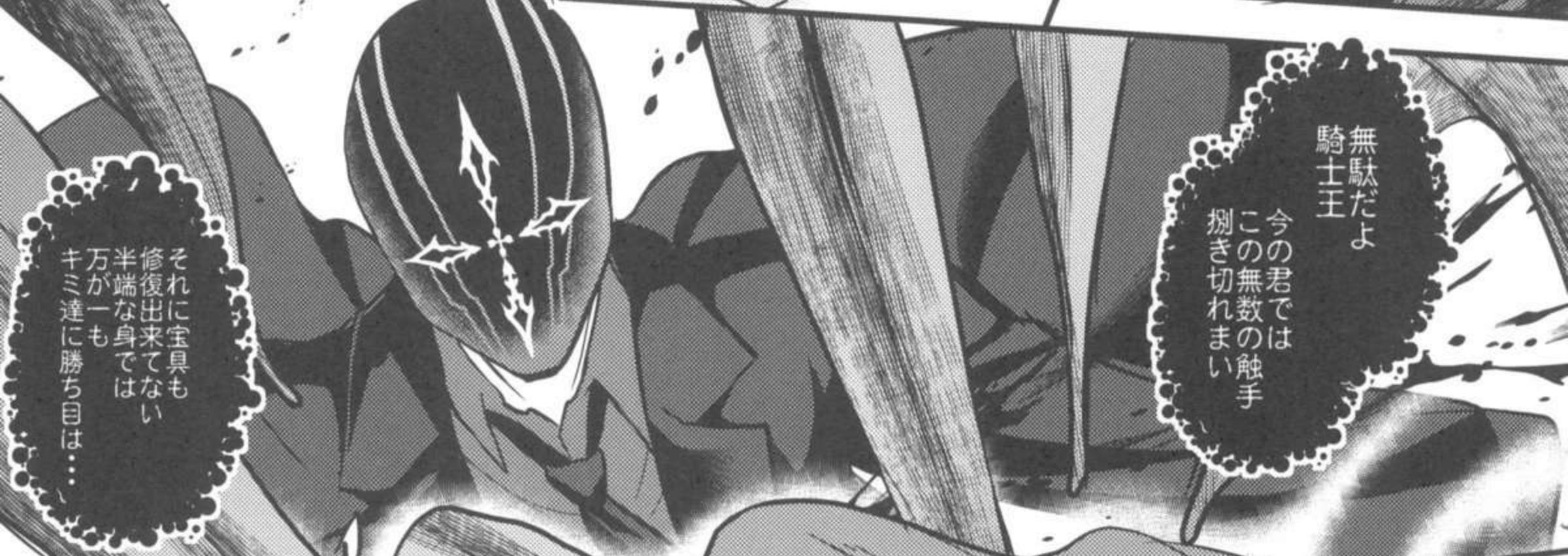




これしきの
攻撃っ!



セイバーッ!



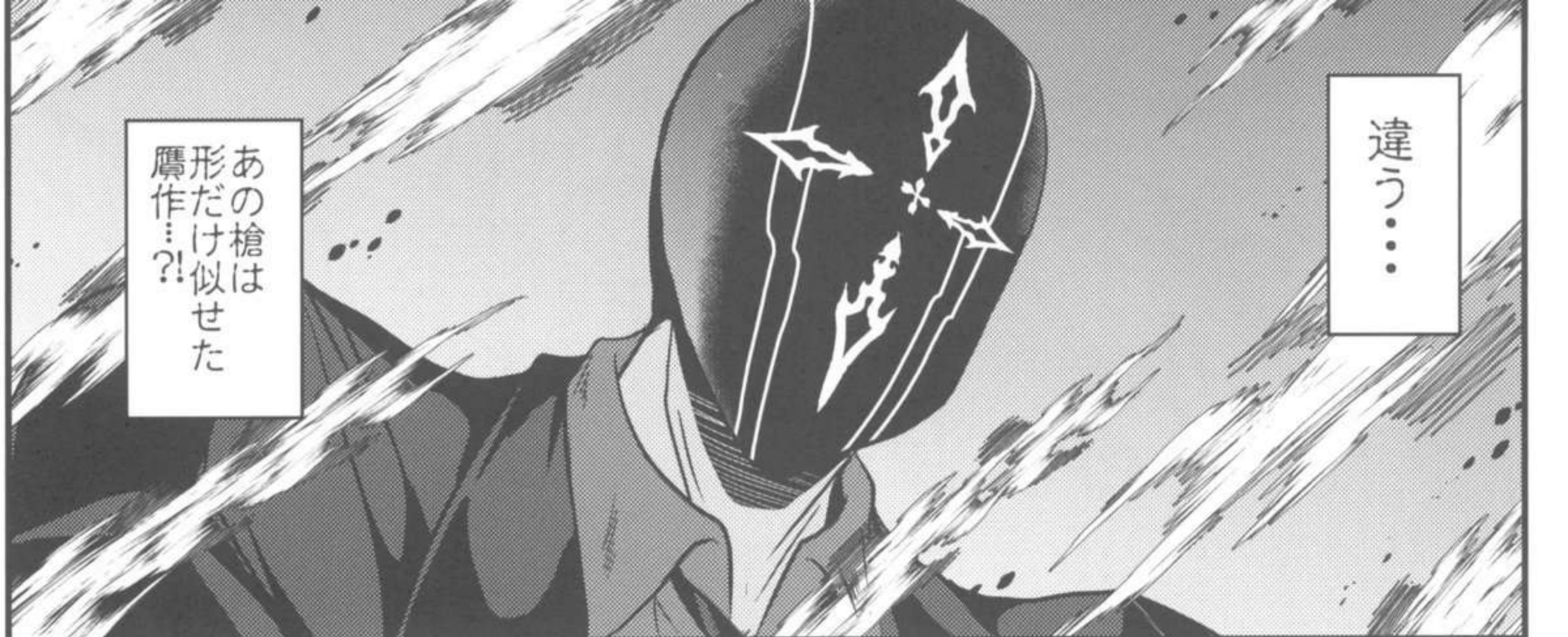
無駄だよ
騎士王

今の君では
この無数の触手
捌き切れまい

それに宝具も
修復出来てない
半端な身では
万が一も
キミ達に勝ち目は……




!?



違う……

あの槍は
形だけ似せた
鷹作……?!



風を
纏ってる……

あの構えは……
まさか!?



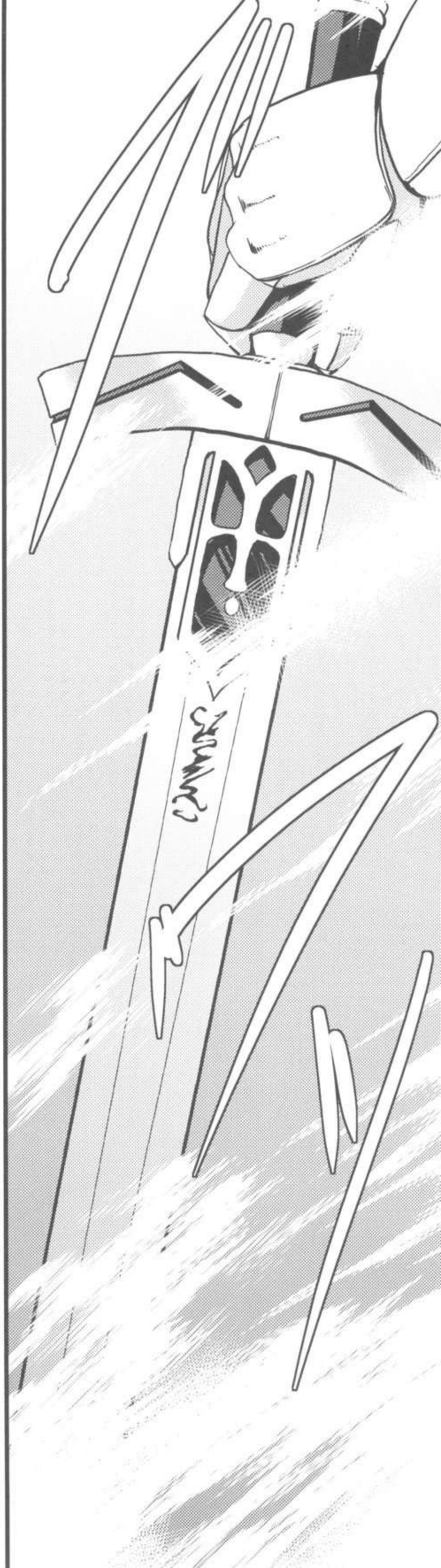




偽物に囚われて
本物を視えてなかった
お前の負けだ!

風
ストライク

「フエイカー!」





鉄槌

エア-

!!

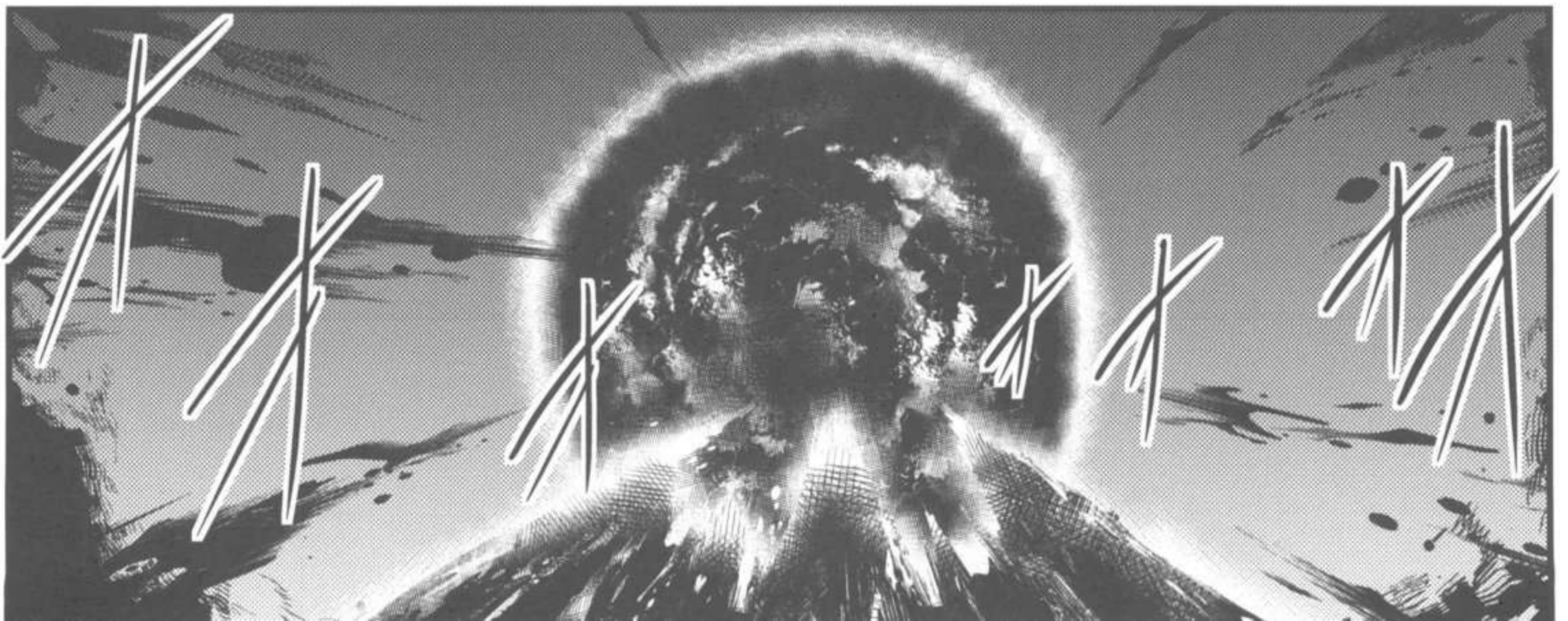


無論だ…シロウが
我が聖剣を
再び造り出したのだ

そして…
「セイバー」と
呼んで良いのは
シロウだけだ



え…
エクスカリバー…
まさか士郎くん…
キミが…



となりの


乳王さま九幕

■あとかき■

■そんな訳であとかきです
今回は槍トリアとショタ士郎のエロもそうですが
描きたかったアルトリア達の愛馬のシーン、
着地任せるキャッチのシーン、ストライク・エアのシーン等
当初で描きたかった部分も描けて大変でしたけど楽しかったです。
おそらく次回で終わると思いますが。
最後まで頑張ります。

あと、この原稿を描いてる最中、
人生二度目のコロナに掛かってしまいました(;´Д`)
ワクチンやコロナのお薬のお陰で
今回も後遺症には悩ませずに済みましたが
夏コミ原稿中で病気は初めてでして、
4～5日は治療に集中しなきゃ行けなかったんで
ホント焦りました。

まだまだ油断ならないコロナですが皆まさもお気をつけください。

次回予定はコミケ105の冬コミで参加すると思いますので
次もどうぞよろしくお願ひします。

皆様に感謝しつつ失礼いたします。

また次回お会いしましょう。ではでは！

■奥付
■発行: 妖滅堂
■発行日: 2024・8/12 初版
■著者: ヤサカニ・アン
■印刷: サンライズ様

■連絡先 e-mail: yasakani3@hotmail.com

pixivFANBOX

Twitter: <https://twitter.com/yasakani>

■18歳未満の方の購入、閲覧を禁止します。

また、この本の一部、または全ての無断転載や複製
インターネット上でのアップロードやファイル共有等を禁止します。





となりの

乳王さま九幕

YO-METSUDO

PRESENTS

Fate/SN・FGO Fan Book